

## 愛知県一宮市で採集された外来種カブトニオイガメ

飯田晃弘\*・北野 忠\*\*・大仲知樹\*\*\*

*Kinosternon carinatum* (Gray, 1855) (Testudines, Kinosternidae)  
collected from Ichinomiya City, Aichi Prefecture

Akihiro Iida \*, Tadashi Kitano \*\* and Tomoki Ohnaka\*\*\*

### はじめに

現在、日本国内にはイシガメ *Mauremys japonica* やクサガメ *Chinemys reevesii* などの在来種以外に北アメリカ原産のカメであるミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* や台湾原産のタイリクミナミイシガメ *Mauremys mutica mutica* など、主にペットとして人為的に持ち込まれたカメが定着し、各地で野生化している。また、近年では主に北アメリカに生息するカミツキガメ *Chelydra serpentina* が千葉県北西部の印旛沼などで繁殖していることが確認され（安川, 2002）、2004年に環境省によって「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」で特定外来生物に指定されている。さらに定着は確認されていないものの、フロリダアカハラガメ *Pseudemys nelsoni* やキバラガメ *Trachemys scripta scripta*、ハナガメ *Ocadia sinensis* などペットとして飼われていた外国産カメ類の野外での発見が近年相次いで報告されている（矢部, 2003）。

このような外国産カメ類の発見が相次ぐ中、筆者らも2001年に国内で発見例のない北アメリカ固有種であるカブトニオイガメ *Kinosternon carinatum* を愛知県一宮市内の公園にある池で採集しているのでここに報告する。

### カブトニオイガメ *Kinosternon carinatum*

独特の外観から一見してドロガメ属 (*Kinosternon*) と推定された。外部形態を Ernst and Barbour (1989) に従って検索した結果、喉甲板を持たず（第1図）、背甲の中央部に著しく発達したキールがあることから（第2図）、カブトニオイガメと同定された。

### 検視個体：1メス

甲長 130.9mm, 甲高 59.2mm, 甲幅 92.7mm,  
体長 342.9g (2006年9月24日測定)

### 採集地の状況

本個体は2001年3月中旬に愛知県一宮市浅井町浅井山公園内にある池の岸辺のガレ場で、魚類採集中に



第1図. 咽甲板の拡大（腹甲側）。  
喉甲板を持たない。

\* 財団法人岐阜県魚苗センター. Gifuken Gyobyou Center, 1486-4, Ikushi, Mino, Gifu 501-3756, Japan.

\*\* 東海大学教養学部. Faculty of General Education, Tokai University, 1117, Kitakaname, Hiratsuka, Kanagawa 252-1292, Japan.

\*\*\* 特定非営利法人犬山里山学研究所. NPO Satoyamagaku Laboratory, 364-2, Tonoji Aza Oh-aze, Inuyama, Aichi 484-0094, Japan.

原稿受付 2007年9月11日. Manuscript received Sep. 11, 2007.

原稿受理 2007年11月15日. Manuscript accepted Nov. 15, 2007.

キーワード: カブトニオイガメ, 国内初記録, 愛知県, 外来種.

Key words: *Kinosternon carinatum*, the first record in Japan, Aichi Prefecture, alien species.



第2図. カブトニオイガメの前側方.  
背甲のキールが発達している.



第3図. 採集地点.  
国土地理院 25,000 分の 1 地形図「一宮」と「Map of Japan Ver.1.3.」(aoki2.si.gunma-u.ac.jp/map/map.html) を使用.  
矢印が採集地点

得られた(第3図)。採集後、現在まで著者の一人である飯田が飼育しているが、ほとんど成長していないことから採集された当時すでに成体であったと考えられる。本個体の採集地周辺には駐車場が整備され、人の往来は多い場所である。また、栈橋などが作られ、一般の人の接近は容易であり、釣り客も見かける。

本調査地で筆者らが確認しているカメ類はミシシッピーアカミミガメのみであった。

## 考 察

カブトニオイガメはカメとしては小型で、価格も外国産のカメの中では比較的安価であるため、古くからペットとして日本国内に輸入されている。近年では繁殖も容易であるため、野生採集個体以外に国内外の繁殖個体も販売されている。このような理由から、国内

のペット市場に大量に流通していると考えられ、本個体も飼われていた場所から逃亡したか、あるいは飼育者による遺棄があったと判断される。

本個体は水温がかなり低い早春に採集され、採集後、現在まで6年間飼育しているが、冬期には屋外で問題なく冬眠している。また、カメ類は交尾後、精子が雌の体内に長く生存しており、受精は遅れて起きることが知られている(疋田, 2002), そのため、本調査地での繁殖が予想されたが、本個体はその後の飼育期間中に産卵したことはない。また捕獲後、およそ3年間に10回ほど本調査地を訪れているが、現在までのところ追加個体を確認出来ていないことから、本種が同地で繁殖している可能性は低いと考えられる。

## 謝 辞

本稿をまとめるに当たり、有益なご助言を頂いた愛知学泉大学コミュニティ政策学部教授の矢部 隆博士と豊橋市自然史博物館学芸員の長谷川道明氏に厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

- Ernst, C. H. and R. W. Barbour, 1989. *Turtles of the World*. Smithsonian Institution Press, Washington, D. C., 313p.
- 疋田 努, 2002. 爬虫類の進化. 東京大学出版会, 東京, 234p.
- 安川雄一郎, 2002. カミツキガメ. 日本生態学会(編), 外来種ハンドブック, 地人書館, 東京, 94.
- 矢部 隆, 2003. 日本に住むカメたち. まみずすすむカメの現状と未来, 島根県立宍道湖自然館ゴビウス・(財)ホシザキグリーン財団, 38-42.